

第 1 問

広島一中に通ったころ、織田幹雄さんは、全国大会に出場するために、「ぜひ出場させてください。きっと優勝してみせます。」と広瀬校長に約束しました。約束を果たすために織田幹雄さんはどんなことをしたでしょうか。

- ①40 日間の夏休みの間、一日も休まずに練習した。
- ②広瀬校長が差し入れてくれた 70 円で、練習道具を買いそろえた。
- ③商店の青年が差し入れてくれた氷で、かき氷を毎日食べた。

【答え】

①暑い 40 日間の夏休み、友人は体調不良を起こしてどんどん倒れていきましたが、織田幹雄さんだけは、「約束を果たす」という信念を貫いて、朝早くから夜遅くまで練習を続けました。

【解説】

今まで、全国大会に出場したことのなかった織田幹雄さんは、自分の実力は一体どれくらいなのか知りたかったことと、全国大会のレベルに挑戦してみたかったので、当時はサッカー部しか全国大会に出場できなかった広島一中の広瀬校長に直談判しました。広瀬校長には「無理だよ。」と一蹴されてしまいましたが、何度も食い下がり、「必ず優勝してみせます！」と約束し、出場することができました。

約束を果たすために、暑い広島での40日間の夏休みの間、一日も休むことなく朝早くから夜遅くまで一人で練習を続けました。織田幹雄さんが練習する姿を見て、時には一緒に走ってくれる人や、商店の青年が氷を差し入れてくれることがあり、その氷で何度も体を拭いて、毎日走ったり跳んだりすることができました。

このころの織田幹雄さんは「自分の限界を超える楽しさ」を感じるほどの超人的な精神力で、毎日の練習に真摯に向き合い、力をつけていきました。

初めて出場した全国大会では、走り幅跳びで優勝、跳躍で優勝、三段跳びでは準優勝し、広島一中は総合優勝を果たし、広瀬校長との約束を果たすことができました。

【自分の考え】

織田幹雄さんの生き方から、自分の信念を強くもち、あきらめることなく自分の限界に挑戦し、何事にもチャレンジしていくことを学びました。

